

第2期柏原市教育振興基本計画【後期計画】（案）に対する意見内容（パブリックコメント）と市の考え方

| 項目 | ご意見の内容  | 市の考え方  |
|----|---|--|
|    | <p>・重点①の「支援教育の充実」について、「支援学級には障がいの状態に応じた専門性を有する教員を配置することができるよう」「支援教育に関する研修の充実を図り」とあるが、障害児教育に関する資格（特別支援学校の免許状など）を有する教員を支援学級の担任にするなど、専門性を担保する記述にすべき。</p> <p>研修の結果どの程度の専門性が身についたのか（身につけるのか）を明確にするべき。</p> <p>・幼小中連携によってどんなメリットがあったのかを数値で示すべき。「市の幼小中一貫教育推進教員が小・中学校の両方の授業を受け持つことや、専門性を生かして小学校における外国語の指導を担うことにより、子どもたちは校種間の段差を乗り越えやすくなっています」とあるが、何をもちえてそう判断したのか、どの程度「校種間の段差を乗り越えやすくなっ」たのかを明確にするべき。</p> <p>・上記2点に共通することであるが、「なんとなく」「○○ではないかな」といった感覚で教育施策を進めてほしくない。</p> | <p><b>重点①「支援教育の充実」における教員の専門性について</b></p> <p>本市としましても、支援学級における指導の専門性の確保は重要な課題であると認識しております。</p> <p>本計画（後期計画案）では、「障がいの状態に応じた専門性を有する教員を配置することができるよう」努めることや、「支援教育に関する研修の充実を図る」ことを基本的な方向性として示しております。</p> <p>一方で、教員の配置につきましては、免許状の所持状況や人事配置上の制約もあることから、計画において特定の資格を有する教員の配置を明記することは難しい状況です。しかしながら、可能な範囲で専門性を有する教員の配置に努めるとともに、校内外の支援体制を活用しながら、組織として支援教育の充実を図ってまいります。</p> <p>また、研修につきましては、支援教育に関する理解や指導力の向上を目的として実施しており、今後も研修内容の充実にも努めてまいります。研修の成果の把握や活用の在り方につきましては、今後の取組の中で検討してまいります。</p> <p><b>幼小中連携・一貫教育の効果の示し方について</b></p> <p>幼小中連携・一貫教育につきましては、校種間の円滑な接続を図り、子どもたちが安心して学びを継続できるようにすることを目的として進めてまいります。</p> <p>計画案に記載しております「校種間の段差を乗り越えやすくなっている」との表現につきましては、これまでの実践を通じて得られた教員の意見や、子どもたちの学校生活への適応状況等を踏まえたものです。一方で、数値による明確な効果の提示が十分でない点については、課題であると認識しております。</p> <p>今後は、取組の成果や課題をより客観的に把握する方法について検討し、必要に応じて施策の改善につなげてまいります。</p> <p><b>教育施策の検証と進め方について</b></p> <p>教育施策を進めるにあたっては、事業の成果や課題を適切に把握し、改善につなげていくことが重要であると考えております。</p> <p>本計画におきましても、施策の進捗状況を点検しながら、必要に応じて見直しを行うこととしております。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、今後もより効果的な施策の推進に努めてまいります。</p> |